

牛久：学校周辺に見る自然

第21号 牛久二小

2011年7月2日発行

< ビオトープ周辺、夏の動物たち >

7/1、気温 30℃と大変暑い日でしたが、牛久二小3年生はビオトープや校庭の木や草にいる動物たちを探しました。どんな動物がいるか、そこで何をしているのかなど考えながらの観察でした。



オオシオカラトンボ。産卵中のメス（左）とそれを見守るオス（右）

第11号でご紹介したように、5/20の観察の時にはクロスジギンヤンマの産卵を観察しましたが、今回はオオシオカラトンボの産卵がみられました。皆さん「シオカラトンボ～」と叫んでいましたが、それにしては腹が太めで青色が強く、翅のつけ根が黒いので、よく似たオオシオカラトンボでは？と考えていたところにメスが飛んできました。間違いなくオオシオカラトンボ。訂正しておいて下さいね。写真右の水色のがオス、左の黄色で腹部の後ろ側が黒いのがメスです。メスは何度もおしりを水につけながら産卵していました。シオカラトンボと同様、産卵中、メスを横取りされないようにオスが見守っています。なお複眼の色についても質問がありましたが、図鑑で調べたら、オオシオカラトンボの複眼は黒っぽく、シオカラトンボの複眼は緑がかっている点も区別点だそうで、言われてみれば確かに・・・と思いました。それとオスどうしが猛スピードで追いかけてこのようにとんでいたのは縄張り争いで、こうして追い出されたオスが、新たな水辺を見つけてすみつくようになるようです。この日、他に目立ったのはコシアキトンボでした。ナツアカネを見つけたお友だちもいましたね。



シロツメクサなどの葉を食べるウリハムシモドキ(左：ネジバナの花にいたのは休憩？)とサトイモなどの害虫でヤブガラシの葉を食べていたセシジズメ(ガ)の幼虫(右)

次は葉を食べる虫たち。植物にとっては困った虫ですが、こうした虫たちもいて自然のバランスが保たれ、あなたも生かされているのです。この世に、要らない命なんて一つもないのですよ。



さて、次は花に来る虫たち。雨もあがり気温も上がったためか、たくさんのチョウやハチが蜜や花粉^{みつ かふん}を求めてやってきました。左はシジミチョウ^{なかも}の仲間。小さいので、ガとまちがえたお友だちもいましたね。他にモンシロチョウとアゲハもいました。ネジバナの蜜を吸うベニシジミ（左）、シロツメクサの蜜を吸う[〃]（右上）、[〃] ツバメシジミ（右下）

ハナバチの仲間もいろいろな花に来ていましたが、特に多く訪れていたのはアベリア（ハナヅノツクバネウツギ）とシロツメクサでした。

また自分は花の蜜を吸うけど、巣^すの中の幼虫^{ようちゆう}に食べさせるために他の虫を狩るハチもいました。



アベリアの蜜を吸うクマバチ（上左）、クロマルハナバチ（下左）、ハナバチの仲間（下中）と、シロツメクサの蜜を吸うヒメハラナガツチバチ（下右）、幼虫のためのエサを狩るオオフタオビドロバチ（上右）

最後にみんなが気持ち悪がっていた、シロダモの木いっぱいいたたくさんのアリ。よく見ると、アブラムシもたくさんいました。お尻から出てくる甘い汁をもらっていたのでしょうか？

それとトウネズミモチの木の下にいたカナヘビ。あまりの暑さに木陰で涼んでいたのでしょうか？



アブラムシから甘い汁をもらう？アリ（左）と、木陰で涼む？カナヘビ（右）

【理科支援員 宮内】